

～セピア色の風景～

青田 茂雄
仙台建設業協会専務理事

「東京オリンピック39」

映画「ALWAYS 三丁目の夕日」の鈴木オートに遅れること6年、昭和39（1964）年に、我が家に白黒テレビがやってきました。近所ではほとんどの家でテレビがあり、そしてその年の東京オリンピックを自宅で見るため、親父は決断したのだろうと思います。

「○番、○番」と呼び掛けた農村の電話「有線放送」が、通話ができる時間帯の間に流す各種お知らせに混じり、三波春夫の「東京五輪音頭」が繰り返し流れ、相馬の田舎でもオリンピックへの期待がふくらみました。

オリンピック前の聖火リレーは、実際に沿道で見たかどうか、記憶が定かではありません。ただ、学校で日の丸の小旗を作つたのは覚えていります。紙は先生が用意したの

ですが、棒、すなわち竹の棒は各自用意したと思います。

事実、各自宅の周りや通学路の沿線には、竹を含んだ藪が多くありました。学校や先生は、竹の棒などは当然自分で用意するものと思つていました。

学校では、白い紙にクレヨンで赤い丸を塗りました。日の丸の小旗を作つたわけです



から、いつときは聖火リレーの見物も計画されたのではないかと今、想像しています。

このときの聖火リレーは、白い煙をたなびかせながら、一人のランナーが相当な距離を走ったようです。田舎はまだまだ縁多き時代。緑

の中を一筋の白い煙を引く光景は明治時代、鉄道の線路が各地に延び、蒸気機関車が進む光景と重なり、日本の高度成長を表す姿でもあったように思います。

●あおた・しげお 1956年生まれ。福島県相馬市出身。2016年5月から仙台建設業協会の専務理事を務める